

金融・会計

keyword

- 金融政策効果
- 金融不安定性
- マクロ経済モデル
- 地域の経済波及効果
- パネルデータ
- GIS(地理情報システム)

得田 雅章
Masaaki Tokuda

経済学部
教授

【プロフィール】

●**専門分野**

- ・計量経済学
- ・経済統計
- ・金融経済学

●**略歴**

- ・1971年 生まれ
- ・2006年 3月 早稲田大学大学院 経済学研究科 博士後期課程修了 (経済学博士)
- ・2006年 4月 滋賀大学 経済学部 助教授 (2007年より准教授)
- ・2016年 10月 経済学部 教授

【主な社会的活動】

●**学会活動**

- ・日本金融学会
- ・日本経済学会
- ・経済理論学会

【代表的な研究テーマ】

□ パネルデータを用いた金融政策効果の実証分析

課題解決に役立つシーズの説明

■**研究目的(単独研究)**

地方創生が声高に叫ばれている背景には、地方都市の衰退という深刻な現状があります。本研究の背景には、金融の地理空間分析という新たな側面から、この現状にコミットできるという着想がありました。本研究では、地域金融機関の与信行動を重視する金融枠組(クレジット・ビュー)に基づく、金融政策効果の地理空間分析を行います。独自指標「地域金融機関の多様性指標」を算出し、金融政策効果の不均一性に焦点をあて地域毎に定量化することで、政策分析に活用します。政策効果の把握から、地域金融機関の適切な行動を促し、ひいては地方創生の一助を目指します。

■**研究の特色**

以下の3点を一体的に取り入れ、金融政策効果を地理空間の視座から実証分析することが本研究の特徴です。

- ① 地域金融機関のパフォーマンスを機関の各種多様性指標より評価する
- ② GIS(地理情報システム)をデータ分析に活用する
- ③ 資産としての地価を金融政策に取り入れる

推計には2000年代以降のパネルデータによるダイナミック・パネルVARモデルを用い、動学的な効果を適切に処理します。GIS(地理情報システム)を活用した不動産価格の形成要因分析は、IT技術や電子地図の発展により近年急激な発展が見込まれる分野です。

しかしながら、GISの利用分野は専らビジネス、行政・公益サービス、危機管理・資源管理、保健・医療、交通に限られており、経済分野での活用は限定的です。しかも、日本における分析対象地域は東京を中心とする大都市圏のミクロ分析に集中しており、地方圏を含む全国をカバーしたものや、地域同士の比較検証を行っているものはごくわずかです。そのため、マクロ経済モデル分析や金融政策効果と絡めて検証しているものはほとんどありません。本研究を通じて、GISという新技術を金融政策分析活用の嚆矢としたいと考えています。

■**その他**

- 金融不安定性の定量化(二宮健史郎教授[立教大学]との共同研究)

経済主体の金融市場に対する確信の不安定性を金融の不安定性と位置づけ、それを定量化したうえで実証モデルに取り込んで分析を進めています。2010年度以降、共同研究を進め、①経済の確信に関する不安定性定量化、ならびに、②リカーシブなVARモデルへの導入を経て、経済構造の変化について検証しています。これまでの分析対象国は日本、米国、韓国でした。

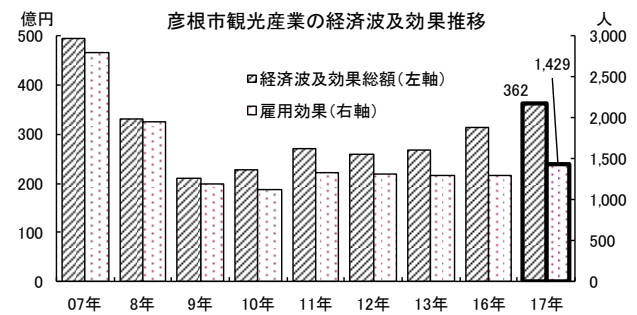
- 彦根市観光の経済波及効果測定(石井良一教授[本学]との共同研究)

2007年から社会連携・地域貢献の一環として、地域に対する観光消費の経済波及効果の分析も行ってきました。その具体例はほぼ毎年実施してきた彦根市経済波及効果測定調査です。こうした活動を通じて、地域経済の実態把握やフィールドワークにも取り組んでいます。

地域銀行(地方銀行・第二地方銀行)業務多様化率分布(2016年度)



筆者 HP より



- 信用金庫の業務多様化がパフォーマンスに与える効果検証(森映雄特任教授[中京学院大学]との共同研究)

企業・自治体へのメッセージ

不動産価格、特に地価分布に関する研究にご協力いただける企業(自治体)を探しています。独自データのご提供が叶うのであればなおありがたいと思います。